第４学年「てつがく」学習指導案

授業者　岡田　泰孝

２月２２日（金）２階プレイルーム　１０：００～１０：４０　話し合い１０：５５～１１：４５

１　題材名　　共に考える（差別とは？）

２　考える価値内容　　自己／他者

３　題材について

（１）本題材にかかわる子どもたちの履歴　－背景に窺える「平等」への意識－

２学期の本学級の「てつがく」の問いは，「なぜ，同じ人間なのに，子どもはおとなの言うことを聞かなければならないのか？」であった。最後の幼児期（伊藤亜矢子，2011 年度４年部会）にして思春期の入り口に立った子ども達は，「同じ人間なのに」なぜ？と，おとな達の言動に批判的な目をもち始めている。テーマの第２候補は，「差別とは？」だった。これら２つのテーマの背景には「平等」への意識が見え隠れする。根っこは同じなのではないだろうか。

（２）子どもたちが「差別とは？」で考えてみたいと思っていることとは・・・

２学期の最後の「てつがく」の時間に，３学期のテーマを話し合った。結果は学級の過半数の子ども達が,「差別とは？」を学びたいと考えている。子どもたちの思いで多いのは次のようなものである。「友達を差別する人がいるから，なぜ差別をするのか，やっている人の気持ちを聞きたい」,「差別はやってはいけない。する人は，されている人の気持ちを分かっていないのではないか？」など，学級の人間関係を見つめ直したり，意地悪をする人に反省を迫ったりしたいということだ。しかし，これらを考えることだけで,「てつがく」の学びになるだろうか。「てつがく」の学びの基本的な思考の仕方は，共通了解を前提にした概念探究である。ならば,「差別とは何か？」という概念探究とともに，他の事例や事柄が差別に当たるのか否かを探究する必要がある（森田伸子，協議会での発言)。例えば，具体レベルの問いにすると,「パラリンピックは差別か」「女性専用車両は差別か？」「優先席は差別か？」などである。それらは,「区別」と「差別」はどこが異なるのか？というさらに抽象的な概念の探究の仕方につながっていこう。〈２内容－(1)エ〉,〈２内容－(2)イ・ウ〉

学習は，学級内の人間関係に関わる生活からの問いで始まるが，それを「てつがく」的に思考し，再び学級でのよりよい人間関係を築く糧に出来るように，学びをデザインしていきたい。それが，民主制社会を支える市民として成長させることにつながるだろう。〈２内容－(3)イ〉

４　学習指導計画（全１０時間）

（１）問い「差別とは？」について考えをノートに書き，お互いに聴きあい話しあう（３時間）。

（２）他の価値や概念（指導案執筆段階では, パラリンピック, 女性専用車両, 優先席など）は「差別」なのか,「差別」ではないのかを話し合い,「差別」の考え方を研ぎ澄ます（３時間・本時)。

（３）「『差別』と『区別』はどこが異なるのだろう」という問い対して, 話し合いを通して考えを深める。その際,「区別」が「差別」に変化することがないか否かを検討する（３時間)。

（４）「差別」の学びを振り返り，自己評価をして，意見文を書き，読みあう（１時間)。

５　本時について（６時間目／１０時間）

（１）本時のねらい

○「○○○は差別か？」という問いについて話し合い，自分の考えを書くことができる。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
○課題を確認する。	○前時のふり返りを読み返す。
「○○○は差別か？」について話し合って考えを深めよう。	
○課題について話し合う。 ・○○○がどんなことか，具体例を挙げながら，自分たちが考えた差別の概念にあたるのか否かを話し合う。	○抽象的な話し合いにらないように必ず具体的な事例に戻って話し合うことを心がけさせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと　具体例を挙げながら,「○○○」が差別か否か，自分たちが考えた「差別」の概念との共通点や相違点について，気づきながら話し合えたか。